頓宮

頓宮は、特定の儀式の際に宇佐神宮の神々を一時的に祀るために利用される場所です。頓宮は 2 つの建物からなり、一つは神様のための御殿、もう一つは神輿という神様を儀式的に運ぶ社のための専用の倉庫です。頓宮は、夏の御神幸祭での重要な役割を果たしており、上宮（上の社）の神々を二泊三日祀ります。御神幸祭の間、頓宮では、菅貫という宇佐神宮独特の清めの儀式など、いくつかの儀式が行われます。

歴史的に、「頓宮」と呼ばれる場所は、有力な神社がその建物を一定の間隔で儀式的に再建する期間中、一時的に神様を祀る場所として使用されました。宇佐神宮の場合、9 世紀から 14 世紀にかけて 33 年ごとに社殿が再建されました。その時代には、再建の度に、上宮、下宮、若宮神社それぞれの神様を祀るため 3 つの頓宮が特別に建てられ、再建が終わった後に取り除かれました。

現在の頓宮は、御殿の修繕工事の時よりも、主に神輿を使った毎年行われるお祭りの際に使用されており、この建物は常設のものとなっています。御神幸祭の期間中に神様をお祀りする以前の頓宮の建物は、1680 年に神橋近くの大鳥居という大きな鳥居の外に建てられ、今の建物は宇佐神宮境内での昭和の大改修（1932～1941）の際に建設されました。